



Title	韓国の絵本が歩んだ道
Author(s)	申, 明浩
Citation	日本学報. 2019, 38, p. 16-23
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/85149
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

【特集】

韓国の絵本が歩んだ道

しん ちゅんほう
申 明浩

1. 韓国絵本の魅力とイメージ

日本に韓国の絵本が初めて紹介されたのは、約 20 年前のことである。その多くは異文化としての韓国を紹介するために、韓国の伝統文化や生活を描いた絵本が、主に小学校の図書館に置かれた。それから 10 年が経って、日本の絵本研究家の間で韓国の絵本に高い関心が向けられ、作品や作家を研究対象にするようになった。最近是世界的な関心を集めるようになり、韓国の絵本研究は、絵本の表現や読書活動にも及んでいる。では、韓国の絵本はどのような歴史とイメージを持っているのだろうか。

2. 韓国絵本の歴史の紹介

韓国で現代的な絵本が出版されるようになったのは 1988 年以降で、日本に比べて 30 年以上遅れている。ここでいう絵本とは、イギリスを中心に発達して来た西洋の絵本をイメージした出版物である。韓国の絵本の誕生はどうしてこれ程遅れたのだろうか。

絵本が生まれるには幾つかの条件が必要である。19 世紀中盤に現れたイギリスの絵本や 20 世紀のロシアの絵本、そして、日本の現代絵本においても以下に示した諸条件が必要で、それらが満たされた時本格的な絵本市場が形成された。韓国は、20 世紀末になって、ようやく諸条件を整えることができたのである。絵本誕生に必要な諸条件は次の 4 つを挙げる事が出来る。

1. 経済的条件：出版物である絵本製作に必要なコストや市場に流通させるために必要なコストを含めた経済力である。
2. 技術的条件：読み物であり、おもちゃであり、芸術品である絵本は、より上質の

複製術が求められるゆえに、大量生産に必要な印刷術や製紙術・インクなどの技術が求められる。これらの技術は、絵本の製作は勿論、表現や絵本のジャンルで活動するイラストレーターとの関わり方も大きく変えたのである。

3. 社会的条件：子どもに対する人権や子供観などの価値観。子どもが一人の人間としての人格が認められない社会では、子どもに読ませる絵本は生まれない。現に、子どもに与えるため自国の言葉で絵本を制作したり、誰でも絵本を手にとって楽しめる普及に至っていない国は意外と多いのである。
4. 教育観：子どもの読み物とはいえ、大人が制作したものを、大人が選択して子どもに与えるという絵本の特有性のため、絵本の制作や普及は国や社会の教育観によって、あらかじめ方向づけられる。将来を背負っていく子ども達をどの方向に導いていくべきかが絵本のテーマや内容、表現と与え方に影響を及ぼすのである。

これらの条件が揃う前の朝鮮半島では、子どもを意識し、新たな子ども観を提示した、子どもの読み物が発行された。子どもを読者に設定した最初の児童雑誌は1908年、崔南善（チェ ナムソン、1890～1957）が男子を読者対象に設け、創刊した《少年》¹である。絵は載っていないものの、西洋の児童文学の翻訳紹介など、積極的に子どもの視野を広げる活動を行った。

次に現れた『アイドルボーイ』²は、絵で表紙を飾るなど、ヴィジュアル的な表現を加えた。その後、多様な子ども雑誌が現れ、子ども教育や人権を訴える活動、西洋の児童文化や文学が翻訳紹介された。特に、1923年に発行された「オリニ」³は、幼い人という意味の言葉をタイトルにした、本格的な子ども雑誌で、今日の子どもを意味する代名詞になっている。日本統治の下で多くの児童雑誌が創刊されたが、朝鮮の言葉や文字継承の活動は、民族意識を醸成するという理由から、直ちに廃刊される、たちごっこのような状況が続いた。その中でも「オリニ」は12年に渡って122号まで発行された。解放の後、伝統の断絶と新しい体制の不備による混乱や朝鮮戦争中⁴での人材と物質の混乱を乗り越え、活動家による児童雑誌が作られた。しかし、戦争が終わった後、これらの活動は、長い停滞期に入った。その理由は、子どもの絵本が生まれる政治的な条件として、当時の活動はロシアの絵本や日本の初期の児童文学の影響を強く受けた、アバンギャルド的な思考によって行われたからである。戦後の国策は、政治主導の自由主義思想に基づいた主体性の確立と貧困からの脱皮を優先した。それは、今までの絵本の活動で見られる社会主義思想を懸念するようになり、約40種に至るそれまでの児童雑誌が姿を消し、活躍の場を失った人々も、この分野から離

れる結果となった。

3. 現代の絵本が始まる(現代絵本の萌芽)

韓国で、現代的な意味での絵本の萌芽が現れたのは、1980年後半である。1988年に開催されるソウルオリンピックは、海外文化や海外への進出を積極的に取り入れる社会現象を起した。特に海外での生活経験者による先進国の文化を取り入れる活動の中で、絵本は従来のイメージを改め、新しいメディアとしての関心を集める。教育観も従来の伝統や韓国式の体制づくりの優先から、グローバル化思考に変わり、世界の現状を解りやすく描いた絵本を子どもの手元に与えることは、新鮮で優れた教育実践となされた。政治的には、言論の規制緩和によって、多くの出版社が新設される中、小規模でも関わることのできる児童書や絵本の魅力は人気アイテムとなって、一気に生産力を上げ、一般対象への普及を担った。

韓国に初めて現れた現代的な絵本としては、1988年出版されたリュウ チェスウ(柳在秀)の『ベクドッサン イヤギ(白頭山物語)』⁶⁾を挙げられる。文学中心の挿絵本、しかも、数十冊の全集が主流だった時代、絵で物語る単行本で、創作物語を描いた絵本だからである。翌年には、カン ウヒョンの『サマゲコンリョン(砂漠の恐竜)』⁷⁾が、初めて海外の賞を受賞した絵本となった。このような出来事は、絵本という新しい媒体に関心を高め、作品としての絵本という価値観を改め、市場にも活気を与えた。これらは、作家は勿論、作品としても良い見本になり、今でも次世代をリードしている。未だ確立されていない絵本市場だが、比較的大手の出版社は、海外の著名な絵本を大量に翻訳出版する市場に、投資が出来ない小規模の出版社は、時間をかけても良い創作絵本を作る市場に参入した。これによって、韓国絵本は量と質の向上に拍車をかけることができた。

4. 絵本作家と活動領域

歴史の浅い韓国の絵本界だが、作家の特徴と絵本を取り巻く環境は以下のように説明できる。1990年代に入って本格的な絵本の出版が行われるものの、絵本作家の活動は、主に国の支援を受ける小規模の出版社の創作絵本分野となった。はじめは、固有文化や日常生活や昔話をテーマにし、韓国のアイデンティティーを作り上げ、子どもに伝える絵本を作った。それらの作品は、絵本に不慣れな親世代の関心と興味を得ながら、解りやすく語る表現や教育題材として選ばれ、子どもに与えられるメディ

アとして受け入れられた。高い教育への関心から生まれたこれらの絵本が、日本では、異文化としての韓国を紹介するツールとして、翻訳紹介されるようになった。

それから十年が過ぎ、韓国の絵本は、海外市場を意識する作品、イラストレーションの魅力を生かした作品が多く現れるようになった。絵本は、作家の個性を発揮する場、特に海外の評価を目指す活動の場であるとの認識から、若い作家の挑戦が目立つようになった。日本に比べ、絵本の歴史が短く、絵本に対する固定観念が柔らかい韓国の絵本は、多方面のアーティストの創作意欲を表現する場になり、多様な表現と展開による個性的な作品も多く現れた。その結果、多くの国際コンクールで高い評価と関心を集めている。

時代による活動の傾向を中心に代表作家をまとめてみる。

1) 韓国固有の伝統や文化の継承を強く意識した物語や技法を基にした活動を行った作家。昔話や日常生活の中で見られる風習や伝統行事などをテーマにし、次世代を意識した活動として絵本作りを行う作家たち。

1990年初期から活動をしなが、韓国絵本の基盤を作った作家が中心で、現在もその意識に基づいた活動を行っている。主な作家に、リュウ ジェス、ハン ピョウホウ、イ オックベ、クオン ユンドック、ジョン スンガック、ジョン ユジョン、キム ウァンヨン、バック チョルミン、コ クァンサム、イ ヨンギョンの他多数。

2) 絵本らしい絵本、子どもの読み物としての絵本作りに力を入れ、活動を行う作家。特に、見慣れた海外絵本の多様な表現を学び、生かした作品が多い。翻訳絵本の出版に注力した大手出版社が創作絵本制作に方向転換する過程で、中核になった作家たちでもある。代表作の創作より、特異な表現力で数をこなす制作活動が一般に絵本を広める活動の源になった。

主な作家に、イ セヒョン、イ ヒョンジン、イ ヘリ、キム ゼヒョン、キムドンソン、ジョン スニ、ジョ ヘラン、チェ スッキ、ハン テヒ、ホン ソンチャンの他多数。

3) 個性的な世界観を持つ作品によって、韓国初の海外コンクールでの受賞となった日本の野間国際コンクールの他、著名な国際コンクールでの評価によって、地位を確立し、活動する作家たちである。

● 日本の野間国際コンクール受賞作家：キム キョマン、イ チャンウ、カンウヒョン、ユ ジョンジン、パク ソヒョン、イ チュンギル、パク チョルミン、他多数。

- イタリアのボローニャ国際絵本原画展入選作家：シン ドンジュン、ユン ミスク、コ キョンスク、ジョン ユミ、ベ ユジョン、ジョン ジンホ、パク ヨンチョル、キム スヨン、イ ヒョンジュ、イ ソンミ、アン ヒョリム、他多数。
- スロバキアのラティスラヴァ世界絵本原画展の受賞作家：キム ジェホン、チョ ウンヨン、ユ ジュヨン、ノ インキョン、イ キフン、イ ミョンエ、キム ジミンなどがある。
- アメリカのニューヨーク タイムズ推薦絵本作家：リュウ チェスウ、イ ホベック、リ スージー。
- イギリスのAOI World Illustration Awardsの受賞作家：キム ジミン。
- その他、韓国の出版社やイベントで開催したコンクール作家も大勢いる。

5. 韓国の絵本を取り巻く環境

韓国で初めての絵本出版以来、30年程しか経っていないが、絵本を取り巻く環境は大きく変った。作家に活動の場を与える出版社は勿論、読者層の形成や子どもに絵本を与えるための社会認識や流通システム変化等、それは多方面に及んでいる。

- 第一期** 1990年以後の15年間で、絵本のイメージ形成とモノとしての絵本作りに力を入れた時期。時空社、ビリョンソ出版社などを先駆けに、絵本専門出版社が現れ、本格的に海外の絵本を大量に国内に紹介した時期でもある。その結果、絵本は新しいメディアとして認識され、多くの出版社が関わる全盛期でもあった。
- 第二期** 2000年以後、大量の絵本が市場に流れる中、その絵本を子どもの手元に届けるためのシステムが形成された時期。子ども教育に高い関心が集まる都市中心の活動は私立の小さな図書館が担い、地方では「奇跡の図書館」が中心になって、絵本普及と楽しみ方を体験させる拡散活動が行われた時期でもある。この活動はその後の子ども図書館に合併吸収されるようになった。
- 第三期** 2010年以後、公立こども図書館が全国に設けられ、多様な活動が展開される。書籍流通に関する法律整備によって、小規模の絵本専門店³⁾が、地域密着型の活動を展開するようになる。子どもには絵本を楽しむ場の提供を、幼児期に絵本を楽しむことが出来なかった親世代には勉強の場となって、

絵本の日常化を目指した活動を行っている。

第三期を迎えた現在、絵本に関わる大勢の人が絵本と共に生きる楽しさを訴え、様々なイベントを行っている。絵本は、物語の視覚芸術の世界から、演劇や音楽や旅行の世界にまで活動を広げている。日本での韓国絵本の現状は、翻訳出版本が約 100 冊で、東京都立図書館には 81 冊の韓国絵本が登録されている。また、オンライン書店での自由な韓国絵本購入が出来るので、読者層の急拡大が推測される。

6. 作家 クオン ユンドックの紹介

2018 年 4 月、大阪大学で講演を行った絵本作家、クオン ユンドックは、第一世代の作家の一人である。民衆運動の一環として芸術によるグループ運動に関わった後、絵本作家となったこともあって、作品の世界は民衆や固有文化や人権を描いたものが多い。しかし、子どもでも分かるようなメッセージにするため、描き方を工夫し、「美しさ」で描くことで作品としての高い評価を得ている。初の絵本である『マンヒのいえ』は韓国画という、伝統技法によるヴィジュアル世界は、親しみやすさと懐かしさを帯びながら、新鮮さを感じさせる絵本となった。それによって、絵本のイメージも乏しかった時代、新しいメディアとして、親にも子にも好まれる絵本として、広く読まれた。日本では、韓国の一般家庭の様子を解りやすく紹介した一冊として楽しまれている。『マンヒのいえ』は、現代化の流れによって壊される近代の生活と生活品が「美しさ」となっている。従来の伝統文化の「美しさ」は、主に、貴族文化を示したが、作家は、民衆である庶民の日常生活や周辺の美しさを描いたのである。その後は、幾つかの言葉遊び絵本を制作したものの、大半は事実に基づいた出来事を、民衆の視点で描く作品である。『しろいはうさぎ』は済州島で伝えている、島生活ならではの悲しさをうたった民謡だ。しかし、作家は、未来に向かって生きる、元気で素直な子どもの世界に描くことで、今の苦難を乗り越える物語に仕上げた。今回、講演のテーマである『花ばぁば』は日本の絵本作家達に誘われ、構成された平和絵本プロジェクトの一冊である。女性の戦争経験を描いた絵本だが、作家は、戦争の暴力や恐怖ではなく生きる力の尊さや平和への望みを「美しさ」に仕上げた。1992 年出版された『マンヒのいえ』を始め、現在 11 冊の絵本が韓国国内で流通している。その中で、『マンヒのいえ』、『しろいはうさぎ』、『花ばぁば』の 3 冊が日本語で出版された。

図版



図1



図2



図3



図4



図5



図6



図7



図8



図9

- 図1 1913年9月出版された『アイドルボーイ』創刊号の表紙、表紙は同じ図を使用した。新文館。
- 図2 子ども向けの雑誌「オリニ（어린이）」創刊号の表紙。1923、ケビョック社。
- 図3 リュウ チェスウ(柳在秀)の『ベクドゥサン イヤギ(白頭山物語)』, 1988。
- 図4 『鳥になりたい』ハン ビョンホウ作, 時空社, 2004, (2005年度ブラティスラヴァ世界絵本原画展(BIB) 黄金リング賞受賞。
- 図5 『走れ! トト』, チョ ウンヨン作, ひろまつ ゆきこ訳, 文化出版局, 2011 年度ブラティスラヴァ世界絵本原画展(BIB) グランプリ受賞。
- 図6 『Hide & Seek』, キム ジミン作, hansolsubook, 2017, 2016 年 AOI World Illustration

awards 受賞, 2017年度ブラティスラヴァ世界絵本原画展(BIB) 黄金リング賞受賞。

図7 「マンヒのいえ」 クオン ユンドック作, みせ けい訳, セーラー出版社, 1998。

図8 「しろいうさぎ」 クオン ユンドック作, チョン ミヘ訳, 福音館書店, 2007。

図9 「花ばぁば」 クオン ユンドック作, 桑畑 優香訳, ころから出版社, 2018。

注

1 1908.11—1911.5 まで 23 号発行された, 少年とその父兄を対象にした啓蒙雑誌。近代の知識普及を本格的に展開した活動だった。内容は, <ガリバー旅行記>, <ロビンソン漂流記>等の冒険物語, 民族意識への喚起からトルストイの作品を翻訳などの文学の他, 歴史, 地理, 自然科学等, 多様である。

2 雑誌「少年」の廃刊後, 崔南善が新たに出版した A5 版サイズの月刊誌で 1913.9—1914.8 まで 12 号が発行された。タイトルは, 「子ども達」を意味する「アイドル」と「見える」を意味する「ボイダ」の合成語, 写真や挿絵, 図, ハングル使用など, 多様な試みが評価された。

3 子ども向けの雑誌「オリニ (어린이)」は, 天道教の少年会議機関誌として 1923 年 3 月「ケビョクサ (개벽사, 開闢社)」で発行され, 1935 年春まで 122 号出刊された。日本統治下で最も長く刊行された子ども雑誌で, 童話, 童詩, 美譚, 小説, 生活, 常識と特殊記事, クイズ等で構成された。

4 1948 年の子どもの日に再発行された。

5 子ども雑誌『少年世界 1952』が創刊された

6 韓国では 1988 年『백두산 호랑이 (白頭山の虎)』というタイトルで, 日本では 1990 年, 『山になった巨人—白頭山ものがたり (이 산크ム・松居直共訳)』で, 年福音館書店から出された。

7 『さばくのきょうりゅう』は, 第 5 回野間国際絵本原画コンクールで大賞を受賞した作品に田島信二が加筆し, 1989 年講談社で出版された。第 20 回講談社出版文化賞絵本賞を受賞された 3 年後, ハンリム出版社は『사막의 공룡 (砂漠の恐竜)』で出版した。

8 オンライン書店の価格競争で衰退した一般書店だが, 定価格制度の法制化によって経済的な安定が守られることから, 新たな絵本の活動の場となり, 多様な活動拠点となった。

9 2017 年のデータによると, 東京国際児童図書館に所蔵されている韓国絵本は, 絵本 1—32, 童話 33—63, 昔話 64—81 と分類されている。

申 明浩 (しん みょんほう)

1986 年来日。東京大学大学院総合文化研究科で学び, 現在武蔵野美術大学, 相模女子大学非常勤。著書に『絵本の世界』(1992 年啓蒙社出版, 2009 年改正版キムヨンジュニア社, 韓国語), 訳書に『コリア驚いた! 韓国から見た日本』(2001 年, 朝日出版社), 『コミック韓国』(2002 年, 朝日出版社), 『絵本は小さな美術館』(2005 年, ジュニアキムヨンサ出版社, 韓国語) の他多数の論文・執筆あり。韓国最初の絵本歴史展(1992 年, 大韓民国国立中央図書館), 韓国最初の国際絵本原画展ボロニャー展(2007, 2008, 2009 年)を企画・開催。弘益大学大学院講師の他, 絵本講座を行う。